



学



校



便



り

第26号

since2006

久田学園佐世保女子 高等学校

H21(2009).10.28 [平成21年度 第2号]



10月24(土)、本校にて『おにぎリンピック2009』を開催しました。

最近では、ブームと言って良いほど“食育”という言葉が流行っているようです。本校では、そういう言葉が使われ始める前から、『食』に対する取り組みを積極的に行っており、生徒の手作り給食(スクールランチ)は約30年の実績があります。そのような経緯から、本校ならではの情報発信を、ということからスタートしたのがこの『おにぎリンピック』です。手軽でしかも美味しいおにぎり。そのおにぎりを、家族や友人と楽しく作り、楽しく食べながら、“食”の大切さやありがたさについてみんなで考えていこうという

趣旨です。今年で4回目となるこのイベントは、回を重ねるごとに市民の皆様方にも理解と知名度が広まり、2回・3回とご参加して下さる方もいらっしゃいます。今回も、佐世保市内のみならず、長崎市や伊万里市の方からも参加されるなど、老若何女問わず、参加・応援の方を含めると100名以上の皆様にお集まりいただきました。

このイベントの開催にあたり趣旨に賛同し、ご後援くださいました皆様、使用する器具・材料・賞品の提供など様々なご協力をいただきました協賛企業の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて次に、『おにぎリンピック』のルールを説明します。まず種目が、「ぴったり部門」と「デザイン部門」の二つに分けられています。「ぴったり部門」は、重さの異なる5つの見本のおにぎりから、くじで3つ選び、その重さに近いおにぎりを見た目だけで(※見本に触ると失格になります)つくっていくというものです。その見本の重さと誤差が少ないチームが優勝となります。親子の部は2名、中学生の部は3名でのチーム構成となっています。

「デザイン部門」は、直径40センチのお皿に、大小色とりどりのおにぎりを敷き詰めて、絵を描くという競技です。1チーム3名以内で、制限時間は60分。今年は描くテーマを“秋”に設定しましたので、もちろんそのテーマに沿ってはいなくても構いません。色はすべておにぎりの具材となるもので、白(白米)・黒(海苔・黒ゴマ)・赤(梅干し)・茶(おかか)・緑(青のり)・紫(ゆかり)・桃(鮭)・肌色(ごま)・黄(サフランライス)のみを使用します。皆さん、事前に練習や試作を重ねていらっしゃるようで、年々、デザインのレベルが上がっています。今年も力作揃いで、審査員泣かせの作品ばかりでした。今年の優勝は果たしてどのチームの、何という作品でしょうか?乞うご期待です。





# 「ぴったり部門」は決勝戦へ



## ～2チームが同グラムで並ぶ～

「ぴったり部門」親子の部は、見本との誤差2グラムで、“ハロー”チーム、“たくやとその母”チームが並ぶという『おにぎりオリンピック』史上？ まれに見る大接戦となりました。予想外の展開に、会場からは驚きの声が上がっていましたが、急きょ、この2チームによる決勝戦を行うことを決定。その結果は・・・これまた大接戦!! 1グラムの差で“たくやとその母”チームが見事2連覇を達成しました。後のインタビューでわかったことですが、この両チームのお母さん同士は知り合いで、3年ぶりに再会したそうです。「まさかこんな所で会えるとは」と、お互いびっくりされていました。おにぎりだけではなく、人と人との“縁”をも結ぶ『おにぎりオリンピック』。暖かい光景の一コマでした。3位は3グラムの誤差だった“お料理大すぎ”チーム。1～3位はいずれもお母さんとお子さんのペアとなり、さすが慣れていらっしゃる分有利だったようです。一方で、お父さんと組んだチームは誤差が58グラム、72グラムなどと大苦戦。やっぱりお父さんはおにぎりにつくってしまおうのでしようか。また、中学生の部は、宮中学校同士の対決。5グラムの誤差で“MIYA”チームが優勝、“いずみ”チームが同じく11グラムで2位となりました。

# カラフルな「デザイン部門」

## ～皿いっぱい“秋”が並ぶ～



「デザイン部門」には11チームが参加。“秋”をテーマに、作品作りに取り掛かりました。完成予想図を横に見ながら、家族や友人と抜群のチームワークで少しずつ皿が埋まっていきます。そして60分後、色とりどりの作品が完成しました。お米が足り

なくなるチーム、逆に余ってしまうチーム、理想と現実とのギャップに苦笑いのチームなど様々な表情がこぼれます。出来の良し悪しはあるかとは思いますが、皆さん共通して満足感や充実感が顔に現われていたようです。審査は難航を極めました。優勝は“仲よし嫁姑?”チームの「赤とんぼ」、2位は“ともレッツだ〜い”チームの「オータム・ハロウィン」、3位が“なかよし”チームの「十五夜」に決定しました。

競技終了後は、みんなで仲良く昼食タイムです。時間をかけて作った芸術作品を食べるのはちょっと気が引けましたが、食欲には勝てません。あっという間にみんなの胃袋に収まっていた。海の幸山の幸が詰まったホカホカのみれ汁も加わり、楽しいひと時となりました。

# 野菜抽選会 & 表彰式

楽しい昼食が終わると、みんなお楽しみの「野菜抽選会」です。どれも地元でとれた新鮮な野菜たちです。当選番号が読み上げられるたび、歓声が上がっていました。

その後、表彰式に移りました。「デザイン部門」の優勝チームには米10キロ・お茶1ケースなど盛りだくさんの賞品が、もちろん他の入賞チームも様々な賞品が贈られました。さらに!なんと!参加者・応援の方全員に玄米1キロとキッチンペーパーをプレゼント! どこかの通販番組もびっくりです。

たくさんのお土産を抱えて、皆さん各々会場を後にされ、『第4回おにぎりオリンピック』も無事お開きとなりました。これからおにぎりを握る時、ちょっとだけでもこのイベントのことを思い出してもらえると大変幸せに思います。またお会いしましょう。ありがとうございました。





# 新聞で紹介されました



おにぎりピック親子ら競う 佐世保女子高

おにぎりや青ノリなどを使った絵の出来栄などを競う「おにぎりピック」が24日、佐世保市の久田学園佐世保女子高（久田順子校長）で開かれた。県内外の親子ら約150人が、アイデア作品づくりを楽しんだ。

日本人の主食である米を通して「食」の大切さを考えてもらおうと同校が主催。今年で4回目。重さの違う3層のおにぎりを3分以内に日本通りに作れるかを競う「ぴったり部門」、直径約40センチのおにぎり、梅干し、おかかな

どを使って絵を描く「デザイン部門」が行われた。このうちデザイン部門には、2～3人1組の計11チームが参加。「秋」をテーマに、1時間かけて思い思いの作品を仕上げた。

市立日宇中3年の石田華奈子さん（14）は母親のふきみさん（40）、弟の響君（9）と、ハロウィーンのお化けなどを表現。「すこく楽しかった。イメーシ遊りに作れた。来年もぜひ参加したい」と笑顔で話していた。



## 雑記帳

約50人が参加した「写真真」。06年に始まり、今年で4回目。直径40センチの皿におにぎりや食材を並び、参加者は「ホントん」をテーマに描いた。

「約40センチの皿を使ったおにぎりには、審査後に参加者ら約150人に振る舞われ、皿に描かれた絵もたちまち消滅。関係者は「おにぎり芸術の食欲の秋？」。

野呂賢治



息も重さもピッタリ

「佐世保のおにぎりピック」

久田学園佐世保女子高

久田順子校長

「おにぎり」は秋、赤んぼを描いた伊良山さん、平野衣里さんが飾った。

## 毎日新聞

## 読売新聞

## 長崎新聞

# 今年の「おにぎり名人」の皆さん



&  
米(まい)  
ちゃん  
と  
愉快な  
仲間たち  
→





# 「デザイン部門」作品集



い〜し焼きイモ♪



玉入れ



京都の秋



秋はにぎりでハロウィンパーティー



赤とんぼ



オータム・ハロウィン



十五夜



お月見



秋



アソビマンと秋の食



お月見

## 校内『おにぎリンピック』も開催



A K I



赤とんぼ



ハロウィンinジジ



ザ・クリン



『おにぎリンピック』では、準備や進行など裏方のスタッフとして大忙しだった生徒たち。そんな生徒たちですが、本番を2日後に控えた10月22日(木)、校内『おにぎリンピック』では主役として腕をふるいました。当日のリハーサルを兼ねて行ったのですが、程よい緊張感の中、クラスメイトや友人とともに楽しく取り組んでいたようです。デザインも、それぞれの個性がきらりと光る作品ができあがりました。本番の作品とあわせて鑑賞し、“芸術の秋”をお楽しみください。